兵庫県医師連盟ニュース

2025〈第35号〉

発行所　兵庫県医師連盟
〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11
Tel 078－265－2328
http://www.hyogo-ishirenmei.jp
編集責任者　八田　昌樹

index

■医師連盟委員長挨拶
■兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項
■かまやちさとし決起大会
■兵庫県議会自由民主党議員団との令和７年度県予算編成に対する要望の回答と意見交換会
■県民の医療と福祉を考える会
■令和７年度日本医師連盟医政活動研究会
■議員対談　衆議院議員　谷　公一氏
■郡市医師連盟だより（たつの市・揖保郡医師連盟）

医師連盟委員長挨拶

兵庫県医師連盟
委員長　八田　昌樹

桜は散り、若葉の季節になってまいりました。これから梅雨を越して夏になると、いよいよ第27回参議院選挙が行われます。

日本医師連盟は組織内候補として、釜萢敏（かまやちさとし）先生を推薦しており、兵庫県医師連盟も同様に推薦しています。

まず、なぜ政権政党の比例代表として候補を出すのかというと、他の医療関連団体が比例代表議員を擁している場合に医師連盟が比例代表議員を擁していないと、政策要望の反映が他団体に比べて難しくなります。また、比例代表に候補者を擁立することは、その団体がいかにその政権政党を支持しているかのバロメーターになりますし、政権政党は、団体推薦の比例代表議員の発言をその団体の発言と受け取ります。そして、全国的な支援体制を通じて、日医・都道府県・郡市医師連盟組織の強化連携を図ることができます。

次に、釜萢敏（以下、かまやち先生）先生を推薦する理由としましては、かまやち先生は平成26年から日本医師会常任理事、令和6年からは副会長として、地域医療の実情や日医の医療・介護政策を熟知し、医師連盟担当役員として陳情等を含め医政に係る活動も積極的に行ってこられました。ここ数年の医療政策は、医師偏在・診療科偏在、医師の働き方改革、かかりつけ医機能報告制度、新たな地域医療構想、医療ＤＸ等、様々な課題が挙げられています。一部の官庁や国政を担う方々の間には、これらの課題を医療費削減や規制改革などに結び付け、本来の趣旨を換骨奪胎せんとする動きがあることも事実です。「日本の医療や介護制度をより良いものにしたい」という思いは全ての会員の共通した願いです。今後も医師会員の先生方が安心して医療や介護を提供し、医業経営を継続できる環境を整えていかなければなりません。そのためには、医療政策、医政活動に精通したかまやち先生は余人をもって代えがたい必要不可欠な存在です。

国民が安心して医療・介護が受けられるように会員の先生方は勿論、ご家族、職員の皆様、患者さんに医療・介護の重要性をお話し下さい。日本医師連盟推薦の候補者は、当選は当然のことながら医療・介護系の候補者の中で1位当選とならなければなりません。会員の先生方のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項

4月13日（日）、兵庫県医師会館で開催し、「令和7年度事業計画」、「令和7年度予算」、「令和7年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

（令和7年度事業計画）

医師の政治力強化を図り、もって「国民皆保険制度の堅持」、「地域保健医療活動の強化」、「平等で安全な医療提供体制の確保」並びに「医業経営基盤の確立」等各種施策の実現のため政治活動を展開する。

一．政治活動

①県下首長・議員に対してのロビー活動展開
　1）県選出国会議員はマンツーマン方式による
　2）郡市医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議会議員、市町議会議員へのロビー活動に対する支援
②兵庫県議会議員との県民の医療と福祉を考える会の開催（医療政策勉強会等の開催）
③兵庫県議会主会派に対する医療政策実現化に向けての県予算化要望
④選挙活動の展開
　1）第27回参議院議員選挙における日医連推薦候補者（釜萢　敏氏）の選挙支援活動を強力に展開する。
　2）各選挙における医師の政治力（集票能力）を示すため、各地区（小選挙区等）での医師連盟推薦候補者の支援活動を強力に展開する。

二．広報活動

県民並びに関係団体に対して、強く医師連盟の理念と医療政策を訴え、理解を得るよう努め、広く県民等を巻き込んだ世論の形成を目指す。

①フォーラム等県民並びに関係団体等参加の集会開催
②医師連盟ニュースの企画・編集、定期発行並びに関係団体への配布
③医師連盟ホームページの紙面の充実

三．対内活動

医師連盟会員への医療政策の啓発とそれを実現させる為の政治活動への参画意識の昂揚を図る。

①医師連盟若手会員の育成
②医療政策を政治に反映させる方策の検討

四．各関係団体との連携強化

関係団体との強固な連携のもと、医療施策の実現化の為の政治活動を展開する。

①日本医師連盟との連携
②近畿各府県医師連盟（医師政治連盟）との連携
③兵庫県歯科医師連盟、兵庫県薬剤師連盟との連携
④その他の関係団体との連携

（令和7年度会費賦課徴収）

一、会費の賦課額

令和7年度兵庫県医師連盟会費賦課額を次の通り定める。

会費賦課額
A会員（年額）3，500円
B会員（年額）1，000円

二、会費の徴収方法

兵庫県医師会会費等徴収規程及び同施行細則に準ずる。

かまやちさとし決起大会

令和7年4月13日（日）、兵庫県医師会館2階大会議室にて「かまやちさとし決起大会」が開催されました。

平林兵庫県医師連盟常任執行委員の司会の下、まず兵庫県医師連盟委員長の八田昌樹氏より、厳しい状況にある医療現場の再興にはかまやちさとし先生を国政の場に送ることが必須であり、一丸となって応援する旨の挨拶がありました。

続いて、来賓として日本医師連盟参与の坂本泰三氏、参議院議員（自由民主党兵庫県支部連合会会長）の末松信介氏、参議院議員（自由民主党兵庫県支部連合会監事）の加田裕之氏、そして兵庫県議会議員（自由民主党兵庫県支部連合会選挙対策委員長）の藤本百男氏より、かまやちさとし先生への力強い支援のご挨拶を賜りました。

その後、参議院議員の羽生田俊氏と自見はなこ氏からのビデオメッセージが上映され、激励のお言葉をいただきました。

決意表明では、かまやちさとし先生より、国政に参加し、国民の健康と安全を守るための医療提供体制の堅持・強化、地域医療の確保、そして何よりも医療従事者の働く環境改善に向け、今後の活動に取り組んでいくとの熱意溢れる決意が述べられました。

最後に、平林兵庫県医師連盟常任執行委員によるガンバローコールが行われ、参加者一同、かまやちさとし先生を支援する強い気持ちを新たに、盛況のうちに閉会いたしました。

兵庫県議会自由民主党議員団との令和7年度県予算編成に対する要望の回答と意見交換会

令和6年9月5日に自民党県議団との意見交換を行い、令和7年度県予算編成に対する最重点要望事項として、「帯状疱疹ワクチン公費補助について」実現方を強く要望した事項について、令和7年3月19日（水）午後4時30分から県庁3号館4階の大会議室において、要望事項に対する回答も含めた意見交換が開催された。

自民党県議団からは、山本敏信（高砂市）、北川泰寿（西宮市）、黒川治（尼崎市）、北浜みどり（神戸市灘区）、吉岡たけし（神戸市垂水区）、長瀬たけし（神戸）、松本裕一（加古川市）、橘秀太郎（豊岡市・美方郡）、の12名、県医師連盟からは、八田昌樹委員長、三浦副委員長、平林常任執行委員、片山常任執行委員、事務局2名が出席した。

開会にあたり大上和則自民党健康福祉部会県議、八田昌樹兵庫県医師連盟委員長から挨拶を頂き、続いて県医師会からの要望に対する回答、懇談が行われた。

回答

令和7年4月より65歳の方を対象とした定期接種化の方針が示された。県としては、円滑な事業移行とするため、令和7年度に限り、満50歳以上60歳以下の方に限定し、市町助成事業に対する補助事業を継続する。定期接種にかかる費用については、十分な財政措置を講じるよう国へ要望していく。

県民の医療と福祉を考える会

4月16日に兵庫県医師会館6階会議室で開催しました。この会は毎年1回、自由民主党兵庫県支部連合会に所属する県会議員と兵庫県医師連盟との間で県民の医療と福祉に関する課題を議論し、連盟からの要望を県政に反映していただくために意見交換を行っています。八田昌樹連盟委員長と自由民主党兵庫県支部連合会黒川治幹事長の開会の挨拶があり、続いて坂本泰三日本医師連盟参与から日本医師会の地域医療介護の未来、新たな地域医療構想と医師偏在対策について説明がありました。

次に医師連盟より、兵庫県医師会から県に対し令和7年度予算化の要望を行ったが認められておらず、次年度の予算編成で重点的に要望したい項目を取り上げました。①医療情報システム（医療機関へのサイバー攻撃に関する相談窓口設置等について）②ワクチン接種（RSウイルス母子免疫ワクチンの接種の費用助成について）③妊婦に対する遠方の分娩取扱施設への交通費・宿泊費支援事業（交通費、宿泊費に関する費用助成について）の3項目を担当執行役員から説明しました。

最後に坂本日医連参与からかまやちさとし先生への支援のお願いが熱く語られました。

連盟からの要望に関しても、活発な質疑応答や意見が交わされて有意義な場となりました。

令和7年度 日本医師連盟 医政活動研究会

令和7年4月20日（日）、ステーションコンファレンス東京において、令和7年度日本医師連盟医政活動研究会が開催され、兵庫県医師連盟からは私と八田委員長が参加いたしました。本研究会の経過について、以下のとおりご報告いたします。まず、日本医師連盟委員長の松本吉郎氏より開会の挨拶がありその後、参議院議員の羽生田俊氏、自見はなこ氏よりご挨拶をいただきました。

次に講演1として日本医師連盟副委員長の茂松茂人氏より日医連の政治活動として、地元選出国会議員との連携や地域からの「声上げ」の重要性と、参議院比例代表選挙における比例代表候補者を擁立する団体の意思表示の理由などについて解説がありました。

講演2では衆議院議員で自民党選挙対策委員長の木原誠二氏より、日本経済と岸田政権の方向性や直面する最大課題「物価高」への対応、増加した税収の配分と政治的論点、地方と供給力、医療の役割、財政と消費税への所見について解説をされた後、参議院議員選挙への期待として今回の選挙は激戦が予想され、当選には20万票以上プラスアルファ（30～50万票）が必要であるとし、医療界内部だけでなく患者・家族への働きかけも重要であるとの認識を示されました。

かまやちさとし先生

講演3では「今後のかまやちさとし後援会活動について」日本医師連盟常任執行委員の城守国斗氏より、公示前・選挙期間中の県・郡市区医師連盟の活動、特に7月公示日直後に行う都道府県医師会、郡市区医師会の役員からA1会員への電話作戦について説明がありました。各地の活動としては福岡県医師連盟、群馬県医師連盟より、これまでの活動報告がありました。福岡県医師連盟は支援依頼のターゲットを絞り、医師会員・医療従事者関係の確実票の獲得を目指していること、サポーター名簿やオリジナルチラシ（医療従事者向け、一般患者向け）、勤務医向け封筒を作成したこと、郡市区医師会と連携し電話作戦やミニ集会を実施し、実務者会議で状況報告を行っていることなどが報告されました。群馬県医師連盟からは12年前の選挙経験を基にサポーター名簿を集め、信頼できる患者さんに依頼していること、遊説カーのスケジュールと対応、各地区での決起大会への動員と進行の工夫について報告がありました。

最後に参議院比例代表（全国比例区）日本医師連盟推薦候補者であるかまやちさとし氏より決意表明がありました。かまやち氏は、皆様の支援に感謝し、全力で頑張る決意を述べられ、医療や介護の現場の厳しい現状を変えたいという思いから出馬を決意したとし、今後取り組むべきこととして、医療・介護事業が継続できる施策、医療従事者の待遇向上と過重労働の解消、国民への質の高い医療提供の実現を挙げられました。そしてそのためには得票数が極めて重要であり、50万票獲得を目指し全力で取り組む姿勢を示しました。国民が驚くような医療・介護の底力を見せたいとし、我が国において医療と介護の仕組みが今後もしっかり機能し、国民が等しく恩恵を受けられるようにすることを目指すと述べ、引き続きの支援を強く訴えられました。決意表明に続いて群馬県医師連盟委員長の須藤英仁氏の発声による「がんばろうコール」が行われ、令和7年度日本医師連盟医政活動研究会は盛況のうちに終了いたしました。

医師連盟プロジェクト委員会
委員長　北垣幸央

出席議員

1区（東灘区）
長瀬 たけし 議員
抱負：地域医療の充実の為
ブレずに頑張ります！

1区（灘区）
北浜 みどり 議員
抱負：新生児に対する支援は
最重要事項と考えてます。

1区（中央区）
伊藤 栄介 議員
趣味：F1 観戦
抱負：現場の先生方の声にしっかり耳を
傾け県政に反映させる。

2区（北区）
奥谷 謙一 議員
趣味：靴磨きで心を整えます。
抱負：共に頑張ってまいります！

3区（須磨区）
伊藤 傑 議員
趣味：ソロキャンプ
抱負：全力！

3区（垂水区）
吉岡 たけし 議員
趣味：歴史散策、少し旧い車
抱負：闘う政調会の構築

4区（西区）
谷口 俊介 議員
趣味：バドミントン
抱負：一所懸命、責任ある県政を目指して

4区（三木市）
村岡 真夕子 議員
趣味：紅茶を楽しむのが好きです。
抱負：政策職人で精進中！

4区（加東市）
藤本 百男 議員
趣味：日々血糖値を下げるのが日課です
抱負：地域医療を守っていくために頑張ります

5区（三田市）
白井 和弥 議員
抱負：県民の健康を支える
皆様の活動を応援します！

5区（丹波市）
石川 憲幸 議員
抱負：地域医療の充実に向けて
お互い知恵を出しあいましょう。

6区（宝塚市）
風早 ひさお 議員
抱負：地域医療を守るために
一緒に取り組みます

7区（西宮市）
北川 泰寿 議員
抱負：健康寿命と社会保障充実を
念頭に努めます

8区（尼崎市）
黒川 治 議員
抱負：自民党県連幹事長の責任として、
参議院選挙、頑張ります。
かまやちさとし候補予定者必勝 !!

9区（洲本市）
浜田 知昭 議員
趣味：散歩、家庭菜園
抱負：現場の声を聴く力の更なる向上

9区（南あわじ市）
太田 康文 議員
抱負：兵庫の地域医療を守る為、
共に頑張ります !!

10区（加古川市）
松本 裕一 議員
抱負：お役に立てる様がんばって参ります

10区（高砂市）
山本 敏信 議員
抱負：後期高齢者で、かかりつけ医に
生命を預けています

10区（加古郡）
岡 つよし 議員
趣味：シャインマスカットと
藤稔を作っています。

11区（姫路市）
水田 裕一郎 議員
趣味：ドライブ好きです。
抱負：信条は信義誠実です。

12区（たつの市・揖保郡）
山口 晋平 議員
趣味：ゴルフ
抱負：恕の精神（思いやり）の
地域づくりを頑張ります。

兵庫県医師連盟執行委員
田中 庸生
議談
対員
×
衆議院議員（兵庫県第5区）
谷 公一
KOUICHI TANI　TSUNEKI TANAKA
対談日：令和7年2月11日

田中執行委員（以下 田中）
この度は国会開催中にもかかわらず兵庫県医師連盟の議員対談のお時間を頂戴してありがとうございます。兵庫5区ではお父様の洋一先生の頃から存じ上げておりますが、谷先生のご経歴などをお聞かせください。

谷衆議院議員（以下 谷）
もともと親父もそうですけども、今の香美町、前の村岡町で小中学生時代を過ごし、今は但馬で一つになっていますけど、当時は北と南に分かれていて、村岡町は南但馬学区でした。南但馬学区から県立八鹿高校に進み明治大学に入学いたしまして、卒業後は国家公務員上級試験にも合格したのですが、当時は社会党系の知事がもっと市町自体が元気に頑張ろうという機運が全国的に盛り上がっている革新自治体の時代でした。革新自治体として大阪府は黒田知事、神奈川県は長州知事、京都は蛭川知事、美濃部知事もそうですね。このような状況の中、私は兵庫県の職員として採用されて神戸市に在住しておりましたが、3年ほど経ったころ国のほうから人事交流のような形で当時の自治省今の総務省に出向することとなりました。

谷 公一 衆議院議員

田中 大学を卒業されて兵庫県庁に5年間過ごされたのですね。

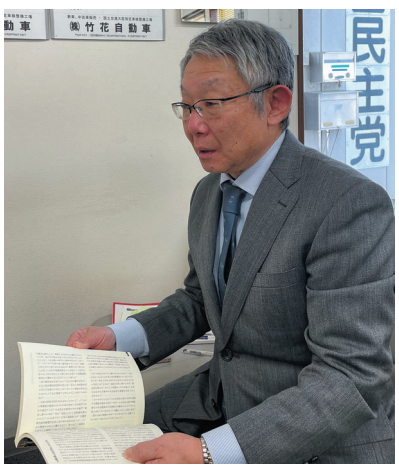
谷 ええ、ちょうど結婚をして、子供も東京で生まれて約束どおり5年ほどいて、30歳ころに兵庫県に戻ってまいりました。県庁では当時の貝原知事のもとで10年余り主に財政の仕事、国の財務省のような仕事が割と長かったのです。企業庁、県民生活部という健康・福祉・文化・環境を所轄する部で総務課長をしていたころに起こったのが、あの阪神・淡路大震災です。当時から首都圏直下地震というのは、危険性というのはよく言われていましたけれど、何か関西に地震はないという。

田中 そうですね。ないという、神話のようにね。

谷 根拠のない神話でした。だから反省させられますね。伊勢湾台風がありましたけれど、その頃は言わば国全体が豊かでなかった頃で、豊かになった日本で大都市を襲った地震というのは初めてでしたから、よく何でも前例はどうしていた、かつてはどうしていたかということを特に公務員関係、行政関係は言われるのですが、そんなものの何もない。本当に今から思えば、しゃかりきで頑張った、頑張ったけれども、当時は前に向いているのか、それともクルクルクルクル漂っていて、円を描いているのか。いや、構前に向いているようで、まだ戻って本当になかなか分からなかったですね。今から思えば、結構むずかしいようなことですけど、県も神戸市も、あるいは国もそうですけど、想定していなかった。だから宿直要員なんか誰もいなかった。かつて地震は日本になかったのかということを考えると、それはいっぱいあった。いっぱいあったけれども想定していないというか、実に甘いというか。被害の状況が判るにつれ、何が必要なのか、国の支援がどのようにあるのか、どういう仕組みになっているのか、まず仮設住宅を作らなきゃならない。仮設住宅についてもそれまで災害によって建てたのが一番多かったのが雲仙普賢岳火砕流の時でしたが、数十戸ですよ。阪神・淡路は結局何度も何度も追加発注して、4万数千戸ですから、言わば桁が違って、国のほうも含めて手探りで復旧復興に取り組んだということじゃないかと思います。

田中 そうですね、先生の忸怩たる思いが歴任された内閣府防災担当大臣に繋がっているのでしょう。

　震災を経験して、管理職と課長となり防災局長もさせていただいた頃に、父が政界を引退するということで、衆議院選挙に出ることになりました。地元県会議員も出たいという方がありましたので、自民党支部に住民の意識改革がありました。県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合合併も公立病院との合併は全国で初めてのことで難渋しましたが、今では大変良かったと思います。


田中庸生 執行委員

谷 私の選挙区では医療の確保に苦労してないところは殆どなく、それぞれの地域で問題と課題を見てきております。但馬地域の場合は戦前から国公立の病院は全くなかったので、医療は自分たちでとの思いから組合立で運営されてきましたので財政基盤は弱く運営をどう持続させて、医師の確保にみんな頭を絞ってますね。摂丹地区では丹波篠山市の、ささやま医療センターの兵庫医科大学病院の撤退問題。三田市ではマスコミでも大きく報道された三田市民病院と済生会病院は市長選挙にも影響しましたが公約を変えたことは良かったと思います。

田中 先生は国家公安委員会委員長、国土交通省では震災復興特別委員長、さらに復興副大臣を歴任されて、今でも東日本大震災復興に関する本部長と防災体制強化本部長の役職につかれております。災害の発災直後からDMAT、災害医療支援派遣チームが災害地に48時間以内に救済に入り、その後は日本医師会からJMATが被災者の生命と健康を守り、被災地の公衆衛生の回復と地域医療の再生を支援しております。先生の防災と医療についてのお考えがありましたら、お聞かせ願いたいですけど。

谷 DMATは阪神・淡路の教訓を生かしてできたと思います。そういう意味ではじめ全国的に広がって、国もバックアップして、今ではすっかり定着していると思います。そういう医療の仕組みをまねてね、ほかの分野でもいろいろ、いい動きはあるかと思います。医師だけではなくて、医師を中心として、看護師、薬剤師、理学療法士とかね。能登にも4回ほど視察に行きましたけれども、よくずっと避難所に出向かれていて、本当に助かってると思います。当面の緊急的な支援と、持続したフォローという意味では本当にそれは効果があるし、いい仕組みだとは思います。

田中 そうですね。復興に関してはいかがでしょうか。

谷 自民党の東日本大震災復興加速化本部の本部長をしてるんです。国は令和8年度に防災庁の設置を考えており、自民党の意見をまとめて政府のほうに提言します。東北の復興は単なる地震、津波だけではなくて、原子力災害ですからなかなか大変です。

田中 難しいでしょうね。

谷 福島第一原発の直下にある

（四面につづく）

（三面より）

双葉、大熊の2つの町。双葉町などはもともと人口が6，000人が今は500人程度ですよ。形式的な住民基本台帳上は5，000人ですが特例法によりこれは一時的な避難だとして住民票を現住所に移すことを猶予されて、住民サービスを受けることができます。

田中　500人では町としての体をなしてないようですね。

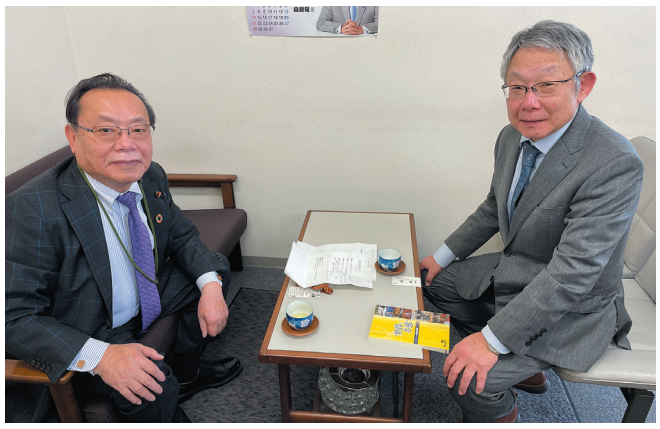
谷　ただ町長をはじめ、何とか戻っていただくということもそうですけども、結構移住して商売をやりたいという方もいるし、ワインに取り組もうとかね。そういう方も出始めてます。いろいろ国の研究機関も新たにつくるとかね、工業誘致を相当大々的にやるとかね、それは取り組んではいるけど、なかなか元の人口までというのは、しんどいところがありますね。同じことは少し形態が違いますけれども、能登でも言えるかと思いますね。よく新聞報道で1年で人口が2割減ったとか言っても、本当はそんなもんじゃないと思いますよ。住民票を移さず避難して親戚宅にいるとか、現実の双葉町も能登もまだ被災地に残ってる方というのは正確には行政もつかんでいないから分からないです。

田中　最後にお尋ねしますが、先の衆議院解散に伴う総選挙の先生のポスターにあるキャッチフレーズというか、「驕らず、怯まず、へこたれず」について教えていただけますか。

谷　ああ、これは言わば時が時ですから、妻など家族から、あんた偉そうに見えるわよと言うので自戒を込めて驕らずと。怯まずというのは、どうしてもしょぼんとなって前に進めず変に忖度したりね、そういうことがないように怯まず、そしてとにかく、へこたれることがないようにという意味合いで。

田中　お忙しい中、長い時間どうもありがとうございました。先生のご健康と益々のご活躍を祈念しております。どうもありがとうございました。

谷　ありがとうございました。



谷 公一 衆議院議員　　田中庸生 執行委員

郡市医師連盟だより

【たつの市・揖保郡医師連盟】

たつの市・揖保郡医師会は、A会員65名、B会員58名、C会員1名、計124名です。

市長や町長、議員などとの定期的な会合や意見交換などは行っておりませんが、いろいろな関連事業の委員会や会議で、顔の見える関係はできており、新年会にはいつもご臨席賜り「医師会のおっしゃることはなんでもお聞きしますよ」と言っていただける良好な関係を築いております。

さて、本年7月には参議院議員選挙が予定され、日本医師連盟は、本会の釜萢敏（かまやちさとし）副会長を組織内候補として擁立することを決定しています。私自身、会長になったことで医師連盟委員長も兼任することになりましたが、選挙等には本当に疎く、現在、県医師連盟常任執行委員で日医連参与の坂本泰三氏のご講演を拝聴させていただきながら、少しずつ勉強しているところです。私には、当会の歴代会長のような強いリーダーシップはございませんが。しかしながら、今までと同じようなやり方では、結果としてなかなか得票には結びついてこなかったことも事実であり、坂本先生もどうすれば、全国の県別得票率の最下位争いから脱却できるか模索中だとおっしゃっておられました。私たちは、県医師連盟の会合で「かまやちさとし」氏の名前を繰り返しお聞きし、県医師連盟の役員の先生方の頑張っている姿を直に見ているうちに自然と応援しようという気持ちになってくるのですが、この空気は、せいぜい郡市医師連盟の方々にまでしか届いていないようです（たつの市・揖保郡医師連盟の場合は役員12名）。坂本先生は、会員1人につき、配偶者、スタッフ、患者さんなどから支援者を20人は集めるよう画策をして下さいとおっしゃいますが、そこまでの人数はなかなか難しいにしろ、たつの市・揖保郡医師会には124名の会員がいるので、そこに草の根的にアプローチができれば、もう少し得票が伸びるのではないかと考えています。「かまやちさとし」氏の名前を会員の皆さんに憶えていただくための戦略として、会員の皆さんが集まる新年会や総会で医師連盟を開催し、坂本先生から頂いた講演スライドを使って、会員の皆さんに支援活動を行いましたが、総会や懇親会に出席される会員は限られており、それだけでは会員の皆さんへの浸透は難しいように思います。さらにより多くの会員の皆さんへ浸透させるためには、SNSの活用も考えていますが、医師会は、政治活動が制限されていると伺っており、会員の皆さんへのスライド資料の配布や動画配信を視聴していただくにあたり、医師会と医師連盟の活動との線引きや、また公職選挙法という厄介な地雷もあり、公示日まで、選挙期間中、選挙当日の具体的な支援活動において、ここまでならOK、これはダメと気軽に教えていただける窓口でもあれば、もっと積極的に支援活動が展開できるのではないかと思います。たつの市・揖保郡医師連盟として、試行錯誤しながら、自分たちにできる支援活動を行うことで、できるだけ多くの会員の皆さんに投票に行ってもらい、得票へと結びつけられるよう活動していきたいと思います。

たつの市・揖保郡医師連盟
委員長　佐野　一成